
SHADOW HUNTER

河原木 たつき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

S H A D O W H U N T E R

【Nコード】

N 6 3 6 8 Z

【作者名】

河原木 たつき

【あらすじ】

そこら辺に居そうな高校一年の椿はある日の夜をさかいにシャドーと呼ばれる化物のような得たいの知れない生き物と戦うシャドーハンターになってしまう…

good morning

「おはよう〜！椿！」

朝からテンションが高い友達の郁美の声が道路に響いた。

「おはよう〜相変わらず朝からテンション高いね…」

頭をかきながら椿が言い返すと、郁美は嫌みを言うように言った

「これだから椿は16にもうすぐ彼氏ができないんだよ！」

「ヤカマシイ」

冷たい視線を郁美に向けた。

「有沢さん、おはよう！」

後ろからなんと男らしい声がした

ふりかえるとそこには背が高くいかにも運動部の体つきをした同じクラスの涼太が立っていた。

「お、おはよう」

椿は不意打ちをくらったかのようにあいさつを返した

「なにしてんだよ、朝っぱらから道の真ん中でケンカして」

椿と郁美は周囲を見渡すと通勤途中のサラリーマンやOLさん、小

学生が自分たちをチラチラ見ながら脇を通ることに気がついた。

二人は赤面した

何事もなかったかのような顔で三人で学校に歩き出した

「椿、学校着いたら宿題見せてくれない？俺昨日忙しくて出来なかったんだ。」

「うそつけ〜！あんたはい〜〜つも！忙しいって言って寝たり、ゲームしたり、漫画読んだりしてんじゃんこの暇人が！」

椿は涼太を睨み付けた。

そのやりとりを見ていた郁美は椿の脇腹を肘でつつきながら言った

「おうおう♪朝からお熱いね♪」

「違うよ！」

二人の声が重なった

そんなやりとりをしながら学校へと続く坂を登り始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6368z/>

SHADOW HUNTER

2011年12月21日12時51分発行